

日本語の自・他・受身の選択 — 中国語話者と中朝バイリンガルの比較 —

杉村 泰

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

sugimurayasushi@gmail.com

0. アンケート調査

アンケート形式…格助詞と自動詞・他動詞・受身の同時選択（全 60 問）

（例） 風でドア（が/を）ボタンと（開いた/開けた/開けられた）。

被験者と実施日

日本語母語話者

- ・名古屋大学学部生（114 人）（2012 年 5 月）

日本語学習者

- ・中国語母語話者：延辺大学外国語学院日本語系（N1 合格者 23 人）（2012 年 11 月）
- ・中朝バイリンガル：延辺大学外国語学院日本語系（N1 合格者 40 人）（2012 年 11 月）

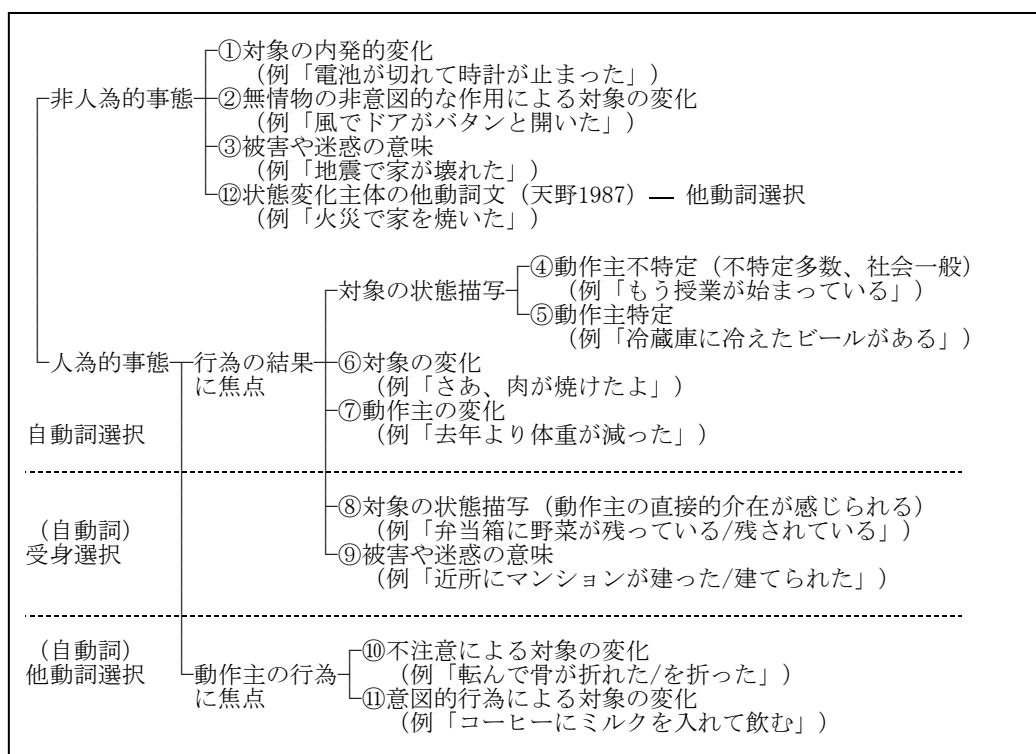


図 1 本研究における事態の分類と母語話者の選択傾向

1. ①対象の内発的变化

母語話者は自動詞を選択する人がほとんどであるのに対し、学習者は自動詞の割合が減り、受身の割合が増える。学習者の中では、中国語話者に比べて中朝バイリンガルの方が母語話者に近い数字を示す。

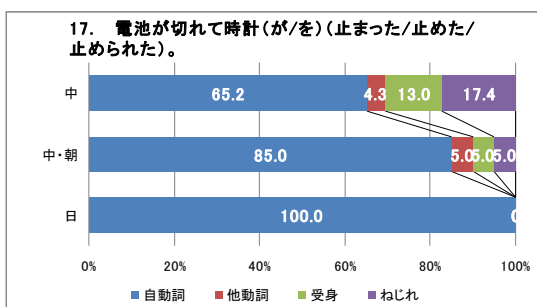


図2 「電池が切れる」

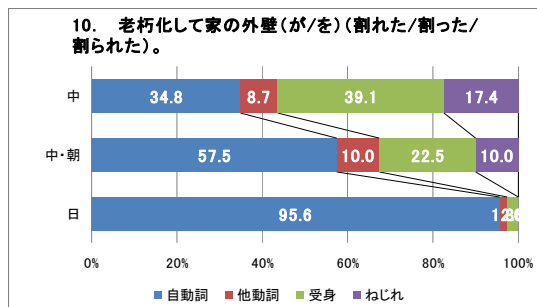


図3 「外壁が割れる」

2. ②無情物の非意図的な作用による対象の変化

無情物（風や火災など）の作用による場合、母語話者は「自然作用」と捉えて自動詞を選択するが、学習者は無情物による被動と捉えて受身の選択率が高くなる。

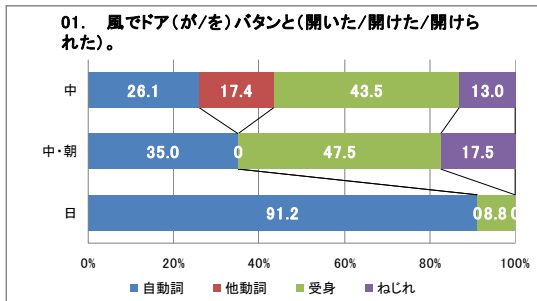


図4 「風でドアが開く」

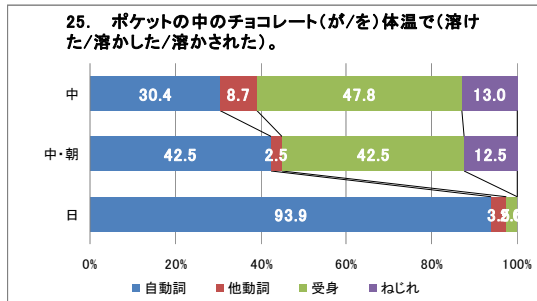


図5 「チョコレートが溶ける」

3. ③無情物による被害や迷惑の意味

この場合、母語話者も学習者も、②と同じような傾向になる。

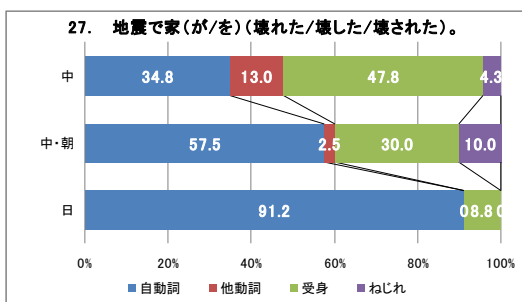


図6 「地震で家が壊れる」

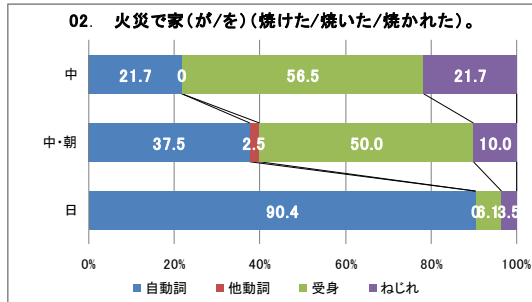


図7 「火災で家を焼く」

4. ④対象の状態描写（動作主不特定）

この場合、母語話者も学習者も自動詞の選択率が高くなる。

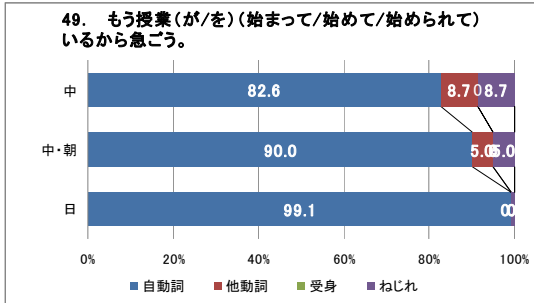


図8 「授業が始まる」

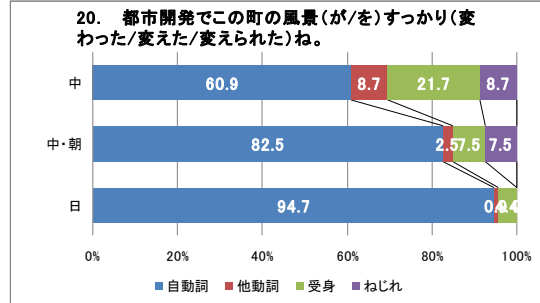


図9 「町の風景が変わる」

5. ⑤対象の状態描写（動作主特定）

同じ対照の状態描写でも動作主が特定のになると、学習者は他動詞や受身を選択しやすくなる。母語話者は自動詞を選択しやすいが、図13のように意図性が強くなると（5℃にしようとする意図）、他動詞や受身の選択率が高くなる。

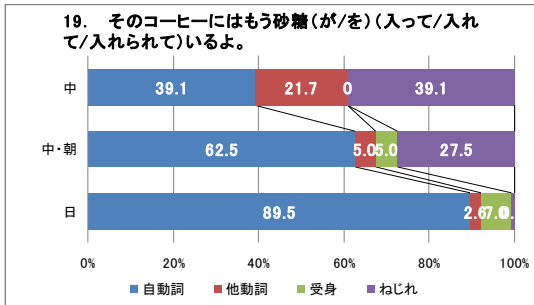


図10 「砂糖が入っている」

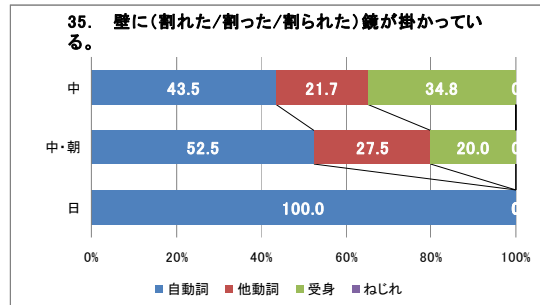


図11 「鏡がかかっている」

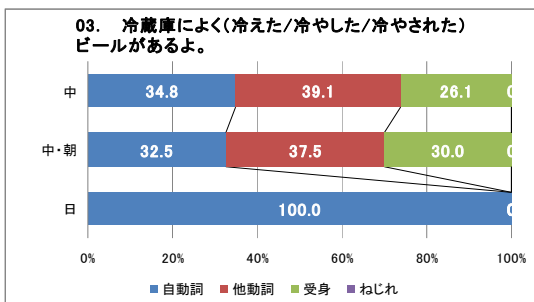


図12 「冷えたビールがある」

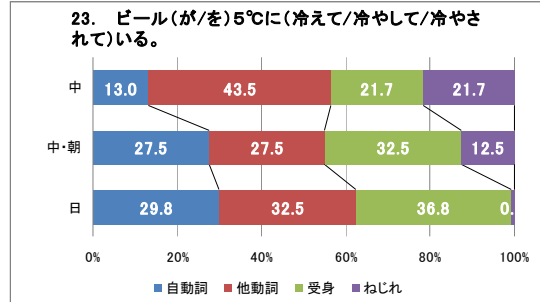


図13 「冷えている/冷やしてある/冷やされている」

6. ⑥対象の変化

母語話者は「問題の解決」、「メニューの決定」、「肉の焼き上がり」を自然変化と捉えて自動詞を選択しやすい。ただし、「お茶」の場合は「飲む人のために」という意図性が入ると、他動詞も選ばれる。一方、学習者は人為的行為であることに注目して他動詞や受身を選択しやすい。

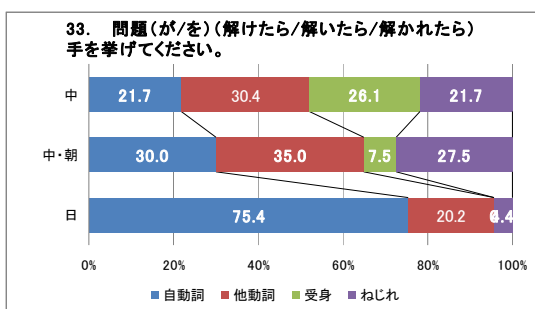


図 14 「問題が解ける」

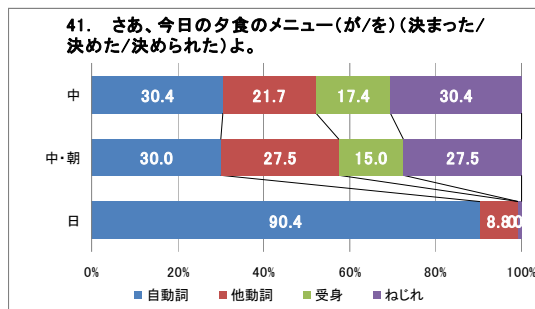


図 15 「メニューが決まる」

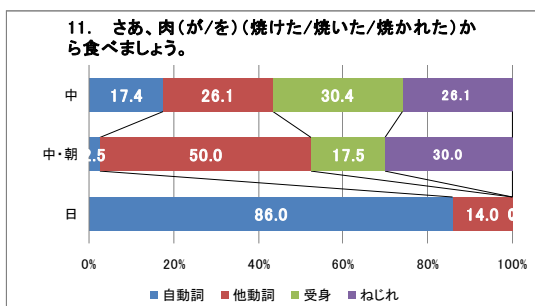


図 16 「肉が焼ける」

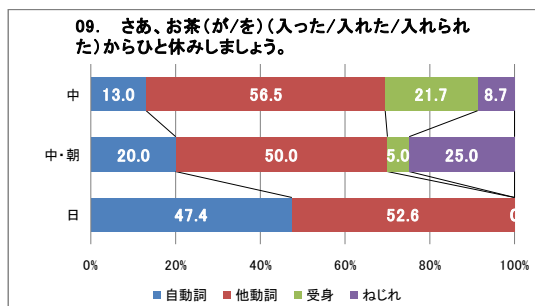


図 17 「お茶が入る/お茶を入れる」

7. ①意図的行為による対象の変化

動作主の意図的行為による場合は、母語話者も学習者も他動詞を選択しやすい。

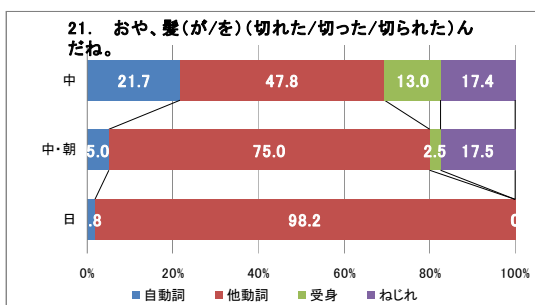


図 18 「髪を切る」

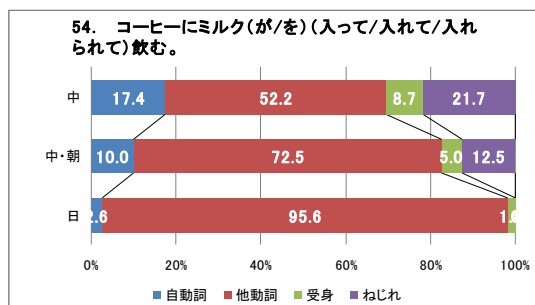


図 19 「ミルクを入れる」

◎全体的に、中国話話者に比べて中朝バイリンガルの方が母語話者に近い数字を示す。

参考文献

- 杉村 泰 (2013) 「中国話話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択について—一人為的事態の場合—」『日本語／日本語教育研究』4, 日本語／日本語教育研究会, ココ出版社, (印刷中)
- 守屋三千代 (1994) 「日本語の自動詞・他動詞の選択条件—習得状況の分析を参考に—」『講座日本語教育』第 29 分冊, 早稲田大学日本語教育センター, pp. 151-165